

忘れられない「ご縁」と「ご恩」

日時：6月19日(金曜日)10:30～

場所：真言宗東芳山**花鳥寺**寺務所3階

地下鉄東西線「蹴上下車」東へ徒歩約13分南側東山花鳥霊園内、駐車場完備

読経 佛前勤行(真言宗総本山東寺)

法話／土口哲光 住職

終了後「お悩み相談」

希望者は、事前にお申込み下さい ☎075-593-7800／個別／秘密厳守

土口哲光住職の著書

真言宗総本山教王護国寺(東寺)第256世砂原秀遍猊下推薦の一冊！

「泣いて生まれてきたのだから

笑って死にゆく準備をしよう」

神戸市西区の真言宗御室派長福寺の長男として生まれ、僧侶となるべく高野山大学に学んだ土口住職。日本の全宗教を取材対象とする「中外日報社」に入社し役員となる。

退社後は総本山教王護国寺(東寺)に教化部長として入山、「御影供」の「弘法市」より御影堂の唐門の前に立って辻説法を続けていた。

本書は、そんな土口住職の温かい包容力のある人柄を彷彿とさせる珠玉のエッセイ集。

土口哲光和尚の説法／高瀬川だより7月223号寄稿文

《忘れられない「ご縁」と「ご恩」》

自肅中のポストへ届いた封書は、百一歳の神奈川県中群大磯町・地福寺の櫻井密嚴和尚である。筆端鮮やかに展開する多くの書面から御壮健を慶ぶ。

百歳を越え活動されるのは、まさしく「人間の姿をした仏さま」に違いない。

「六大誌」に掲載された私の寄稿文「東寺新長者に飛鷹全隆師就任」を読まれご褒辞を賜った。なかでも「師匠と弟子」の浅からぬご縁とご恩についての実話の拙文から櫻井和尚は、八三年前に旧制・高野山中学で野球部員の急死から起こったストライキ事件を初めて文章にできた、と記す。ご自身が無期停学の処罰を受けながらも無事に卒業できたのは当時の教師で、飛鷹師の師匠・草繫全弘師のおかげ。「終生忘れられない恩師だ」と謝す。